

キリストが すべて です

冬 (12月 2022、1月 と 2月 2023)

彼らの口には、神への称賛、彼らの手には、もろ刃の剣がある  
ように。 (詩編149:6)

12月の初めから、私は松井田の町にある自宅からやや離れた町や住宅地で、屋外での説教と福音文書の配布を続けてきました。私は新しい土地を開拓することにいつも胸を躍らせます。そこに実を結ばせてください。そして 16 日(木)には、高速列車に乗って南へ向かい、岐阜県大垣市に行きました。その夜 7 時から、美濃ミッショングループの大垣聖書教会で説教をしました。その後、美濃ミッショングループに宿泊し、18 日(日)には富田浜聖書教会で午前 10 時 30 分と午後 7 時の 2 回、説教をしました。2 日後の早朝 5 時 24 分の列車で美濃ミッショングループを出発し、さらに南の温暖な鹿児島県指宿市へ向かいました。

私の指宿市での典型的な平日はこうです。午前 6 時 10 分、自宅から 16 歩ほど歩いて敷地の最前部(私自身の駐車場)に立ちます。そこは JR 二月田駅のすぐ隣で、駅のホームからわずか 7 歩ほどの距離です(神の恵みにより、私は自分の私有地に立っています)。そこでは、午前 6 時 21 分の列車に乗って仕事へ向かう魂たちがホームで待っています。彼らは一日中、自分のため、雇い主のため、そして国のために労働するのです。私は列車の扉が閉まるまでの 11 分間、彼らの創造主なる神への賛美の賛美歌を、彼らの耳に向かって歌います。

朝一番と二番目の列車は午前 5 時から 6 時の間にこの駅を通過しますが、その時間帯にはほとんど人が乗らないため、私は歌いに出ません。また、近隣の住民の多くがまだ眠っており、起こしてしまえば私を悪く思うでしょう。

6時21分の列車の後、私は6時54分、7時24分、7時31分発の列車に合わせて歌います。これらの時間帯には、より多くの人々が私の近くに集まり、私の調和のとれた贊美が、彼らの耳を通して、心、魂、良心へと流れ込むのです。平日の毎日、これらの会衆は忠実にここへ集まっています。

「**甘き主イエスよ、この静かで小さな無人駅のすぐそばに、私を奇跡的に置いてくださったことを感謝します。ここに、多くの尊い失われた日本の魂が日々集まってくれるのです。」**

読者の皆さん、世界中で年に一度、日の出の礼拝が行われ、宗教的な人々がイエス・キリストの復活を記念していることをご存じでしょう。私は少し偏見があるかもしれません、仏教徒や神道の魂たちという「捕らわれた聴衆」に向けて、週5日行っている私の日の出の贊美礼拝は、世界中のどの礼拝にも劣らないと信じています。栄光あれ！

その後、私は急いで二月田駅を離れ、その朝に選んだ学校へ向かい、登校する生徒や自転車で通学する生徒たちに向けて、校門付近で歌います。

日中は、個人的な用事を最小限に抑え、できるだけ多くの時間を公共の場での説教や、家々を回って福音文書を玄関先に置くことに使います。週に2、3回の午後には、6校ほどある小学校のうちの一つの前で下校する子どもたちに祈りの風船を配ります。その後、午後4時か5時頃に帰宅し、夕方から夜のラッシュ時に、列車から降りる人、または乗る人が多い時間帯に、家の前で歌います。雨の日は屋外伝道の妨げになりますが、小さな玄関の屋根の下に立てば、多くの耳と魂と良心に十分届

く距離で歌ったり説教したりできます。

1974年初頭に日本の子どもや若者たちと関わり始めた頃、彼らのほとんどは私のもとに集まり、イエス・キリストの救いの福音を聞いてくれました。しかし今では、多くの子どもや若者が、私に近づくと公の場で逃げ去ります。距離を取るのです。

それは主に、大人たちが「彼は恐ろしい人だから避けなさい」と警告しているからです。また、彼らが1歳頃からあらゆる発光する画面に映る無数の悪魔の像を見続け、その支配下に置かれてきたことも理由です。それらの悪魔は、特に12歳以下の子どもたちに強い恐れを与え、私を見ると恐怖を感じさせます。

「主イエスよ、彼らを縛っているすべてのサタンの力から解放してください。アーメン。」

兄弟姉妹であるクリスチャンの皆さん、どうか私のこの祈りに心を合わせ、天に向かって声を上げてください。

「まことに、あなたがたに言います。地上で二人が心を合わせて願うことは、天におられるわたしの父によってかなえられるのです。」（マタイ18章19節）

「天の父よ、あなたの聖書は、あなたが一人の魂も地獄の終わりなき炎の中で永遠に滅びることを望んでおられないと教えています。どうか、サタンに捕らわれているこれらの魂のために、私たちが今あなたに捧げる切なる祈りを聞いてください。彼らを解放してください。主よ、切に願います。アーメン。」

神は、あの穏やかな南国の気候の中で、良い天候の日々を私に多く与えてくださいました。それは(暗くされた心に神の光を輝かせたいという燃えるような願いと相まって)、私を大いに奮い立たせ、陣営の外にあって主と共に歩みながら、屋外での伝道に力を尽くさせました。これまで九州南部では、悪魔的な反対は常に強かったのですが、今回はこれまでになく激しく、猛烈でした。指宿で初めてのことでしたが、ある小学校の校長が、下校中の子どもたちに祈りの風船を配っていた私に対し、警察を呼びました。私は公共の道路脇に合法的に立っていただけで、彼には警察を呼ぶ正当な法的根拠はまったくありませんでした。しかし神はそれを、栄光ある「キャンプ集会」へと変えてくださいました。親切な警察官2人と、十数人の尊い子どもたちが私のすぐそばに集まり、さらに車を運転していた人々も速度を落として眺めながら通り過ぎていきました。その中で私は、彼らの創造主なる神への賛美歌を歌い続けました。招くこともなく、素晴らしい出席者数でした。

「すべてを成し遂げた後は、立ちなさい。」

「主イエスよ、あなたの憐れみと恵みによって、熱核爆弾が間もなく私を一瞬で蒸発させ、私の魂と靈があなたのもとへ昇っていくその時まで、私は立ち続けたいと願います。その瞬間、私と共に蒸発した周囲の日本人の無数の魂と靈に向かって、『人類の救い主を信じ、悔い改めたことを、私は心から喜んでいる!』と叫びながら。」

生ぬるいラオデキヤ的クリスチャン教員よ。巨大なスクリーンの邪悪な光の前に座り続け、神がこの忌まわしい終末の世代を滅ぼしておられるのを恐怖のあまり見つめ、心を失いそ

うになっているあなたよ。神がますます多くの魂をこの地上から取り去り、永遠の住処へ送っておられるのを震えながら見ているあなたよ。あなたはむしろ、公の場に立つか座り、これ以上ないほど穏やかな顔で、こう歌うことができるのです。

「平安、平安、すばらしい平安、天の父のもとから下ってきて、無限の静けさのように私の魂を包む…」

完全で、清く、正しく、聖で、義なる神が、極度に不義で倒錯し、忌まわしく、不聖で不淨な、人類史上最も腐敗した世代に、義なる裁きを下しておられるのを見て、恐怖に怯えるなら、それは救われたクリスチヤンとして、極めて靈的に無知なことです。

「日に七度、私はあなたを賛美します。あなたの義のさばきのゆえに。」「あなたの律法を愛する者には、大いなる平安があり、何ものも彼らをつまずかせません。」  
(詩篇 119 編 164、165 節)

「栄光に満ちた御座におられる、聖にして義なる天の父よ。罪の報酬は死であると定めるあなたの律法を、私は愛します。また、あなたが今、日に日に増し加えつつ神を憎む反逆の人間たちを死に渡しておられるその義なる裁きを、心から賛美します。この肉の体にある限り、来たるべき怒りから逃れるよう人類に警告し続ける忠実な見張り人として、私の体・魂・靈を強めてください。その働きの中で満たされる大いなる平安、喜び、勝利、確信を感謝します。アーメン。」

この冬、日本南部で多くの頑なな顔の前に立ちながら（「彼らの顔を恐れてはならない」）、私は、聖靈が数人の子どもたち、数名の十代の若者、そしてごくわずかな大人たちの心の

中ではっきりと働いておられるのを見ることができ、大きな祝福を受けました。

「主イエスよ、あなたの御心に従って彼らを選んでください。  
アーメン。」(ヨハネ 15 章 16 節)

祈りの友である皆さん、以下の、サタンに捕らわれている大人たちのために、どうか執り成してください。

### ① 連鎖的に喫煙する男性

平日の朝、彼は私の家の隣にある二月田駅で列車を降ります。降りるとすぐにコロナ用マスクを外し、たばこを取り出して火をつけ、私の敷地の入口の真正面で吸い始めます(列車内は禁煙なので、強いニコチン欲求があるのです)。私は約 4 年間、彼を観察してきました。最初の頃、彼は私が自分の私有地で賛美歌を歌っていることに怒りの表情を見せ、悪臭の煙を私の方へ吹きかけながら、通りの先へ歩いて行って吸っていました。2 年ほど挨拶もありませんでした(私は年に 3 か月未満しかここにいません)。しかし 1 年前から、彼は心から親しげに挨拶するようになり、今年もそうでした。どうかキリストが彼に大きな憐れみを示し、救ってくださいますように。

### ② 悪霊に叫ばされ歩き回る男性

彼は毎朝この駅から通勤します。列車が来る 5 分以上前に自転車で到着します。私が賛美を歌っていると、彼はすぐにホームを神経質かつ怒った様子で行ったり来たりし、時には激しく叫び声を上げます。周囲の日本人は彼を無視します。おそらく悪霊によるものだと分かっているのでしょうか。どうか神が彼を悪霊とすべての悪しき力から解放してくださるよう、切に祈って

ください。

### ③ 顔を隠す女性

彼女は帽子や傘で顔を隠し、特に私から顔を背けます。定期的な通勤者ではありませんが、さまざまな時間に列車に乘ります。午後、私が歌い始めると、駅舎横の短いベンチ（私の家側）に座っていることがよくありますが、私を見るか聞くと、怒って立ち上がり、悪口を言いながら離れていきます。言葉を聞き取ろうと耳を澄ませましたが、あまりに早く激しく話すため、今まで一言も理解できません。日本語ではなく、彼女の中の悪霊の言語かもしれません。どうか彼女のために祈ってください。

これら3人の永遠の魂は、私が光を照らす中で日々出会う人類の一例にすぎません。私は実に祝福されています。「この小さな光、私は輝かせる。輝かせる、輝かせる、輝かせる！」

読者の友よ、あなたは自分の小さな光を輝かせていますか？「升の下に隠すのか？ いいえ！」私は輝かせるのです！

私のため、またこれらの魂のために祈ってくださる皆さんに感謝します。中には、私に危害を加えようと思霊を呼び出そうとする者もいるかもしれません。

「主イエスよ、あなたの守りの血と、あなたの子どもたちを守る天使たちを感謝します。私の命はあなたの御手の中にあります。ですから、なぜ恐れ、心配する必要があるでしょうか。アーメン、アーメン。」

日々、この危険な時代はますます危険になっています。

「しかし、主イエスよ、来てください。」

キリストが私たちを迎えて来られるその日まで、それぞれが忠実に務めを果たしますように。豊かな祝福があなたにありますように。祈り、また御言葉をすべての人に宣べ伝える働きを支えてくださっていることに感謝します。

キリストのしもべ、 サム-ヤ-ビ-